

Y07a 映像・音声でよみがえった緯度観測所の平三郎とクモの糸

馬場幸栄（一橋大学）

平三郎（1909 - 1969）は大正 12（1923）年から緯度観測所に勤務し、以来 40 年以上、工作担当として観測器機の整備に従事し続けた。その代表的な仕事のひとつは、眼視天頂儀用マイクロメーターに十字線として極細のクモの糸を張るという緻密で根気のいる作業であった。クモの糸が輸入できなくなったときは、平が自ら山に登ってクモの卵嚢を採取し、その糸を十字線に用いたことでも知られる。緯度観測所はそのような平の貢献のおかげで、精密な観測データを獲得できたと言っても過言ではない。この平三郎の仕事ぶりをテーマとしたドキュメンタリー番組が、昭和 40 年代に 2 本制作されている。ひとつは『ある人生 クモの糸をつむいで 40 年』（昭和 40（1965）年 2 月 28 日放映、NHK 制作）であり、もうひとつは『クモの糸 ～平三郎～』（昭和 42（1967）年 4 月 29 日放映、IBC 岩手放送制作）である。近年、これらの番組を録画したビデオテープが岩手県で、カビの生えた状態で発見された。そこで、科学技術史研究における貴重な史料であるこれら番組の映像・音声を復元すべく、ビデオテープのカビ除去とデジタル化を行った。結果、平三郎の動く姿と肉声、また、平本人によるクモの糸張り作業の様子を動画でよみがえらせることに成功した。